2025

ノウフク アワード

NOUFUKU AWARD
2025

ノウフク

「ノウフク・アワード2025に寄せて」

農福連携等応援コンソーシアム
会長　皆川 芳嗣

農福連携等応援コンソーシアム会長の皆川です。今年もノウフク・アワードの表彰式を迎えました。農福連携等に取り組む優れた団体等を表彰することによって、農福連携の国民運動としての機運を高め、全国的な展開につなげることを目的に開催して今回で6回目になります。回を重ねるごとに農福連携の広がりと深まりを実感させていただき、主催者の一人として関係者の方々のご努力に心からなる敬意と感謝を申し上げます。

2024年の6月に改定された「農福連携等推進ビジョン（2024改訂版）」では、農福連携の持つ人々を繋ぐ力と社会を癒す力の一層の発揮に向けて新たなアクションが提示されています。具体的には「地域で広げる～点的な取組から地域へ」、「未来に広げる～未来の担い手の育成と新たな価値の発信」、「絆を広げる～ユニバーサル農園の拡大と「農」「福」の一層の広がりへ」の三つのスローガンの下、取組主体数を今後5年で12,000以上に拡大する目標が掲げられました。ノウフク・アワード2025の受賞団体には、このビジョンの目指す方向に向けて先導的に歩んでいる団体等が多く見られます。県域全体で農と福をマッチングする「佐賀モデル」を確立した「佐賀県」や普通高校が特別支援学校と連携してノウフクの未来の担い手育成を行う「埼玉県立川越総合高等学校」、障害者、生活困窮者、ひきこもり、矯正施設出所者等が集うユニバーサル農園で米作りを行う「ぽかぽかワークス」等です。グランプリを受賞した「株式会社ココトモファーム」では、自社栽培したお米でバウムクーヘン等のスイーツを製造・販売していますが、農福連携を軸とした企業間連携に取り組んだり、障害者が活躍する販売店を設置するなど、新たな価値の創造・発信に積極的にチャレンジされています。ココトモファームのスイーツは新造された豪華客船飛鳥Ⅲでも提供されているのです。

今年の年明けには総理官邸でノウフク交流会が開催され、歴代のノウフク・アワード受賞団体の方々が官房長官、農水、厚労、法務各大臣と親しく交流する機会がありました。各大臣の言葉からも農福連携に対する期待の大きさがヒシヒシと伝わってきました。是非皆様も受賞者の取組を参考にしていただき、農福連携が目指す地域共生社会創りの一翼を担って頂けると幸いです。

2025
ノウフク
アワード
NOUFUKU AWARD
2025

内閣官房長官

木原 稔

「ノウフク・アワード2025」を受賞された21の団体の皆様、本日は、誠におめでとうございます。

農福連携は、障害のある方々が農業の現場で力を発揮し、農業を支える担い手として活躍する取組です。働くことを通じて自信を持ち、生きがいを持つことにもつながります。また、農業をきっかけに人と人とがつながり、地域を元気にする力もあります。

政府では、こうした農福連携をさらに広げていくため、令和6年6月に新たなビジョンをまとめました。2030年度までに、全国で1万2千件以上の取組主体が生まれることを目標としています。そのために、「地域で広げる」「未来に広げる」「絆を広げる」、この3つを大切にしています。

今後は、まず、特別支援学校や矯正施設などで、農業に触れる機会を増やしていきます。土に触れ、作物を育てる経験が、次の一歩につながります。次に、地域で協議会を作り、農業と福祉の関係者が顔の見える関係を築いていきます。働きたい人と、農家などの働く場をつなぎ、農業実習、商品のブランドづくりなどを進めていきます。そして、働き始めた後も、きめ細かな支えにより、安心して長く働ける環境を整えていきます。

1月9日には、官邸にて「ノウフク交流会」を開催し、今回、グランプリに輝いた「ココトモファーム」の皆様をはじめ、5団体の方々をお招きさせていただきました。

各団体の方々が心を込めて作られた農作物や加工品をいただきながら、農福連携にかける思いや現場での工夫についてお話をお伺いし、改めて農福連携が持つポテンシャルの大きさを強く感じました。今後も、皆様と力を合わせ、政府一丸となって、農福連携を全国へと広げてまいります。

結びに、本日お集まりの皆様の益々の御活躍・御発展を祈念し、私の挨拶といたします。

（令和8年1月28日「ノウフク・アワード2025」表彰式における木原官房長官ビデオメッセージ）

2025 ノウフク アワード NOUFUKU AWARD 2025

農林水産大臣
鈴木 憲和

「ノウフク・アワード2025」受賞者の皆様、本日は誠におめでとうございます。

農福連携は、障害者の方が自信や生きがいをもって活躍ができる、そして農業人口が減少する地域農業の振興につながる、そして、何よりも共生社会の実現につながる取組です。昨年度に改正をされました食料・農業・農村基本法においても、農福連携の推進が初めて位置付けられました。今後ともその取組をしっかりと支援していきたいと考えております。

さて、今回のノウフク・アワードでは、グランプリ、準グランプリ、優秀賞、フレッシュ賞、チャレンジ賞を含めて計21団体が受賞されました。グランプリを受賞された愛知県犬山市の株式会社ココトモファーム様は、自社栽培のお米を活用して、高品質なバウムクーヘンなどの米粉スイーツを製造・販売されています。せっかくですので、私もココトモファーム様のバウムクーヘンを取り寄せて食べてみました。これは全くお世辞抜きで、私がいただいたのは、大変しっとりしていて一体感のある美味しいバウムクーヘンで、米粉でこんなに美味しいスイーツができるのか！と感動いたしました。

私自身、農林水産大臣に就任して以来、農業政策、特にお米の政策をめぐっては、日々色々な御意見をいただいています。その中には批判的なご意見もありますし、農業をめぐる状況は色々な課題も山積していますから、やはり私も一人の人間として色々思い悩むこともあります。しかし今回、グランプリを受賞されたココトモファーム様が米の更なる需要拡大の可能性を改めて認識をさせていただいたことや、他の受賞者の方々が農福連携を通じて地域農業を盛り立てていただいているということに触れますと、力強い応援団を得た気持ちにもなり、大変勇気づけられた思いです。私も、バウムクーヘンのように生産者から消費者までがみんなで「丸く、円満に」なるような政策をこれからも作っていきたいと思います。

結びに、本日御参集の皆様及び関係者の皆様の益々の御活躍・御健勝と、農福連携の更なる発展を祈念いたしまして、私のメッセージとさせていただきます。本日は誠におめでとうございます。

法務大臣
平口 洋

このたび、「ノウフク・アワード2025」を受賞された皆様、誠におめでとうございます。

農福連携を通じて、地域で働きづらさや生きづらさを感じている方にやりがい・生きがいを生み出していただいている皆様に、心から感謝を申し上げ、敬意を表します。

法務省では、罪を犯した人が立ち直り、再び罪を犯すことを防止する再犯防止を推進しています。そして、政府が取り組む再犯防止に関する施策を定めた「第二次再犯防止推進計画」には、農福連携に取り組む皆様との連携を推進することが掲げられています。今回受賞された皆様の中には、罪を犯した人の立ち直りをご支援いただいている方もいらっしゃると伺っております。再犯防止のためには皆様のような民間の方々と連携した取組が必要不可欠です。

法務省としては、刑務所、少年院や保護観察所において、罪を犯した人が農業を通じて立ち直るための取組を充実させるなど、全力で、その支援に取り組み、「誰一人取り残さない」社会の実現に努めてまいります。
本日お集まりの皆様におかれましても、引き続き、お力添えを賜りますよう、改めてお願い申し上げます。

結びに、農福連携に取り組む皆様の益々の御活躍と、御健勝を祈念いたします。

厚生労働大臣

上野 賢一郎

「ノウフク・アワード2025」表彰式の開催に当たり、一言ご挨拶を申し上げます。

まず、各賞を受賞された皆様に、心よりお慶び申し上げるとともに、農福連携を通じて、障害のある方の社会参加の推進にご尽力されてきたご功績に、深く敬意を表します。また、受賞者の皆様をはじめ、関係する皆様方の熱意ある活動が、障害のある方の生活を豊かにする上で大きな役割を果たしてきたことに、改めて感謝申し上げます。

近年、農福連携は、障害のある方をはじめ、高齢者、生活困窮者、ひきこもりの状態にある方といった働きづらさや生きづらさを感じている方々が、農業を通じてそれぞれのペースで働くことができるなど、就労や社会参画の場として広がりを見せています。

今回受賞された皆様の取組を拝見しますと、地域農家との連携により、障害者の一般就労と地域農業の活性化に貢献しているものや、ユニバーサル農園の開設により多様な人材が参加し交流できる場を創出するものといった、素晴らしい取組が全国各地で生まれています。さらには、AIの活用により、ICTと農業が連携した取組の実施や、生産から販売までの作業工程の効率化・6次産業化の取組など、様々な工夫により工賃向上を実現されており、農福連携の多様さと可能性を感じております。

厚生労働省としては、農福連携を通じて、障害のある方の賃金・工賃の向上や社会参画の促進に繋がるよう、農業従事者をはじめとする関係者の皆様と連携し、障害の有無にかかわらず、人と人とがつながり支え合う地域共生社会を実現してまいります。

結びになりますが、皆様の益々の御活躍と御健勝を心より祈念し、私の挨拶といたします。

文部科学大臣

松本 洋平

この度、「ノウフク・アワード2025」の各賞を受賞されました皆様、本日は誠におめでとうございます。

また、日頃より農福連携の取組に御尽力されている関係の皆様に対し、深く敬意を表します。

今回受賞された 埼玉県立川越総合高等学校は、県内の特別支援学校の生徒と協働しながら、商品開発や生産物の販売に取り組まれるなど、先生方の熱心な指導や生徒たちの真摯な取組が高く評価されての受賞です。

こうした農福連携の取組は、川越総合高等学校と特別支援学校双方の教育活動の充実と、生徒たちの障害理解の深まりに繋がる意義のある取組と考えています。

文部科学省としては、これからも農林水産省等の関係省庁と協力して、農福連携の推進に尽力してまいります。

結びになりますが、農福連携の取組が更に進展していくことを期待するとともに、皆様の益々のご活躍とご健勝を心から祈念申し上げ、私の挨拶とさせていただきます。

一般社団法人 日本経済団体連合会

副会長・農業活性化委員長
小川 啓之
（コマツ会長）

副会長・農業活性化委員長
木原 正裕
（みずほフィナンシャルグループ社長）

農業活性化委員長
磯崎 功典
（キリンホールディングス会長）

「ノウフク・アワード2025」を受賞された皆様、誠におめでとうございます。グランプリの「ココトモファーム」をはじめ、受賞団体の皆様のご功績に心より敬意を表します。

今年度のアワードの応募団体数は215と、過去最多を更新しました。また、昨年度に引き続き、社会福祉法人や企業だけでなく、特別支援学校と連携して取り組む高等学校や地方自治体など、多様な団体が受賞に輝きました。農福連携の活動の輪が着実に拡大していることの証左であり、今後もこの勢いがさらに加速することを期待いたします。

受賞団体の取り組みは、多様な人材の特性に応じて各団体が独自に様々な工夫を凝らされており、どれも他の団体や地域にとって模範となる先進的なモデルです。特に、スマート農業を通じた効率化や6次産業化の推進などによって付加価値の創出を実現されている点は高い評価に値します。引き続き、こうした実践的な取り組みの好事例を展開することで、農福連携が各地に波及するとともに、持続的な取り組みとして定着することが求められます。多様な人材が自信や生きがいをもって活躍する社会の実現に向けて、農福連携の重要性はますます大きくなるものと存じます。

経団連は、農福連携等応援コンソーシアムの幹事として、周知・啓発活動を通じた農福連携の活性化に引き続き取り組んでまいります。受賞団体の皆様の一層のご活躍と、農福連携のさらなる発展を心より祈念申し上げ、お祝いのご挨拶といたします。

一般社団法人 全国農業協同組合中央会

代表理事会長
山野 徹

「ノウフク・アワード2025」においてグランプリをはじめ各賞を受賞された全21団体の皆さま、誠におめでとうございます。

また、各団体の取り組みを応援してくださった地方自治体や福祉関係の皆様、そして、障がい者のご家族の皆様など、すべての関係者の皆様に、心からお祝いと敬意を表します。

私どもJAグループでは、組織理念である「JA綱領」において、「環境・文化・福祉への貢献を通じて、安心して暮らせる豊かな地域社会を築こう。」と定めております。この理念の実現に向けて、農福連携もその取り組みの一つとして位置づけ、現在、多くのJAにおいて、取り組みをすすめているところです。

JAグループが主体となる取り組みとしては、「JA全農　耕種資材部施設園芸企画課・ゆめファーム全農こうち」がチャレンジ賞を受賞されました。
また、グランプリを受賞された株式会社ココトモファーム様の取り組みをはじめ、その他の表彰団体様の取り組みにおいても、JAグループが連携先として地域の実態に即したご支援をさせていただいているものがございました。

組織理念を具現化する取り組みを、こうして評価いただいたことは、全国各地で農福連携に取り組むJAにとって、大変励みになるものと思います。

農福連携の取り組みが、今後、ますます広がっていくことを祈念いたします。

ノウフク・アワードとは

ノウフク・アワードは、全国で農福連携に取り組んでいる団体等・企業や個人（以下「団体等」という。）を募集し、農福連携の素晴らしさを発信する優れた取組を表彰するものです。こうした表彰を通じて、国民的運動として農福連携推進の機運を高め、農福連携の全国的な展開に資することを目的に2020年に開催され、今年度で6回目となります。

●審査方法

審査委員会において、「人を耕す」、「地域を耕す」、「未来を耕す」という3つの視点から総合的に審査を行い、90点満点で評価して各賞の選定を行いました。

「グランプリ」…今回のアワードで優秀賞に選定されたもの及びこれまでのアワードにおいて優秀賞以上（グランプリを除く）を受賞し、かつ、今回のアワードにおいても応募があったものの中から最も優れた取組を選定。

「準グランプリ」…今回のアワードで優秀賞に選定されたものの中から審査基準における「人を耕す」、「地域を耕す」、「未来を耕す」のそれぞれの視点において特に優れているものを各1点選定。

「優秀賞」…3つの視点から総合的に優れた取組を数点選定（昨年度までに優秀賞以上に選定された団体等は、本年度の優秀賞の選考外）。

「フレッシュ賞」、「チャレンジ賞」…優秀賞に達しないが優良な取組の中から、取組開始5年以内の団体等に対してフレッシュ賞を、高齢者や生活困窮者等との連携、林福、水福、地域の伝統産業との連携など新たな農福連携に取り組んでいる団体等に対してチャレンジ賞をそれぞれ数点選定。

令和7年8月4日(月)から 令和7年9月30日(火)までを応募期間として、ノウフクWEB、関係省庁等からのお知らせを通じて広く周知した結果、過去最高となる215件の応募がありました。

●審査委員紹介

中嶋 康博 委員長
女子栄養大学
栄養学部 教授

濱田 健司
東海大学
文理融合学部経営学科 教授

松森 果林
聞こえる世界と聞こえない世界をつなぐ
ユニバーサルデザインアドバイザー

村木 厚子
全国社会福祉協議会 会長

米田 雅子
国立大学法人 宇都宮大学 理事

農福連携等応援コンソーシアム

●設立の経緯

2019年6月に農福連携等推進会議（議長：内閣官房長官）において決定された「農福連携等推進ビジョン」に提起されている課題の1つ「農福連携が広がっていない」に対応するため、2020年3月に農福連携を全国的に広く展開させ、各地域において農福連携が定着していくことを目指して「農福連携等応援コンソーシアム」が設立されました。

このコンソーシアムは、全国初の官民連携ノウフク応援団として、国・地方公共団体、関係団体等や、経済界や消費者、さらに学識経験者等の様々な関係者を巻き込んで、国民的運動として農福連携等を応援する組織であり、2026年2月現在、640の会員がその趣旨に賛同し、活動の幅を広げています。

●農福連携等応援コンソーシアムへの参加

コンソーシアムでは、①「ノウフク・アワード」選定による優良事例の表彰・横展開、②農福連携等を普及・啓発するためのイベントの開催、③農福連携等に関係する主体の連携・交流の促進などの活動を関係団体及び関係省が連携して行っていくこととしており、その活動に当たり、当コンソーシアムの趣旨に賛同し、ご参画いただける企業や団体の入会を募集しております。

会費等は無料ですので、この機会に取組の輪の拡大に向けて、皆様の入会をお待ちしています。

●農福連携等応援コンソーシアムについて
https://noufuku.jp/consortium
農福連携等応援コンソーシアムの規約、
入会のご案内・申込書は上記ページからダウンロードできます。

ノウフク・アワード 2025　表彰式

皆川芳嗣 会長

ノウフクアンバサダー 城島茂さん

中嶋康博 審査委員長

株式会社 ココトモファーム

社会福祉法人 新友会 ひまわり畑

佐賀県

ぽかぽかワークス

特定非営利活動法人 楽園プロジェクト

株式会社 エール　多機能型事業所 にじのいろ

埼玉県立川越総合高等学校

株式会社 ピーカブー

特定非営利活動法人 にじのかけ橋

株式会社 農楽里

社会医療法人 みどり会 さんさんグリーン

社会福祉法人 みんなの輪 あいあいファーム わ・は・わ田尻 ひなた農場

株式会社 みずほライス

JX金属コーポレートサービス 株式会社 内原ファーム

特定非営利活動法人 笑福

福岡正信自然農園

多機能型就労継続支援事業所 リベラ

株式会社 きりん きりんの里

株式会社 風鈴

全国農業協同組合連合会 耕種資材部 施設園芸企画課・ゆめファーム全農こうち

株式会社 マテリアル東海

濱田健司 委員

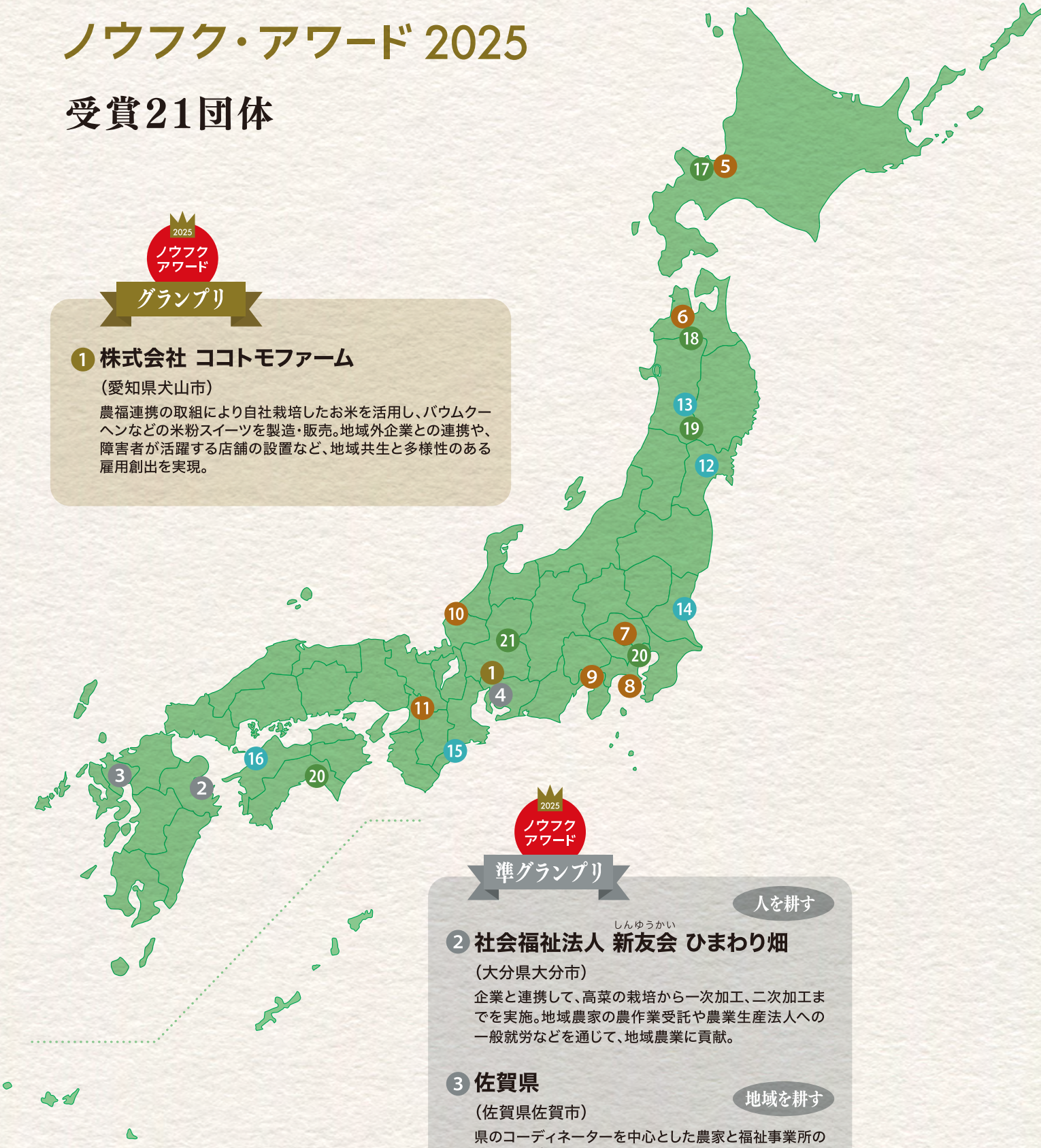
松森果林 委員

村木厚子 委員

米田雅子 委員

ノウフク・アワード 2025

受賞21団体



2025 ノウフク アワード

グランプリ

1 株式会社 ココトモファーム

（愛知県犬山市）

農福連携の取組により自社栽培したお米を活用し、バウムクーヘンなどの米粉スイーツを製造・販売。地域外企業との連携や、障害者が活躍する店舗の設置など、地域共生と多様性のある雇用創出を実現。

2025 ノウフク アワード

準グランプリ

人を耕す

2 社会福祉法人 新友会（しんゆうかい） ひまわり畑

（大分県大分市）

企業と連携して、高菜の栽培から一次加工、二次加工までを実施。地域農家の農作業受託や農業生産法人への一般就労などを通じて、地域農業に貢献。

地域を耕す

3 佐賀県

（佐賀県佐賀市）

県のコーディネーターを中心とした農家と福祉事業所のマッチング支援により、工賃向上や農地の維持、農業経営体の規模拡大に貢献。中間支援者のためのマニュアル作成など、「佐賀モデル」が全国へ波及。

未来を耕す

4 ぽかぽかワークス

（愛知県名古屋市）

障害者、生活困窮者、ひきこもり、刑務所出所者等の多様な者で、農福連携都市農業による米の付加価値向上を行う。また、ユニバーサル農園の開設により、多様な人材が参加・交流できる場を創出。

2025 ノウフクアワード

優秀賞

⑤ 特定非営利活動法人 楽園プロジェクト
（北海道札幌市）

「戦力になる農福連携」をテーマに、24時間365日作業受託可能な体制で農作業チームを結成し、平均工賃9.5万円以上を実現。冬場には荒廃農地を利用して菌床しいたけ栽培を行い、年間を通じた作業を創出。

⑥ 株式会社 エール　多機能型事業所 にじのいろ
（青森県板柳町）

耕作放棄地を活用し、AIによる自動かん水・施肥システムで作業の効率化を図りながら、高品質な果物や野菜を生産。施設外就労による複数の地域農家との農福連携やノウフクJASの活用を通じて、高賃金を実現。

⑦ 埼玉県立川越総合高等学校
（埼玉県川越市）

特別支援学校と連携して狭山茶の栽培管理等や、地鶏の飼育から商品開発・販売までの6次産業化に取り組むことで双方の生徒の進路選択の幅を広げ、将来のキャリアを考えるきっかけ作りに貢献。

⑧ 株式会社 ピーカブー
（神奈川県三浦市）

特例子会社に農作業を委託し、作業の細分化やスマート農業の導入により収益性と生産性が向上。より多様な人材が活躍できる環境が整備され、現在は外国人労働者と共に障害者が農作業で活躍。

⑨ 特定非営利活動法人 にじのかけ橋
（静岡県三島市）

生産から販売まで障害者等が一貫して関わり、作業工程の効率化や6次産業化により収益性を確保し、工賃向上を実現。多様な人々が関わる仕組みづくりと地域内外の連携に取り組み、地域農業の維持・発展にも貢献。

⑩ 株式会社 農楽里（のらり）
（福井県あわら市）

AIやスマート農業を活用することで障害者の作業領域を大幅に拡大。水稲栽培や観光いちご農園の運営などに取り組み、楽しく多様な農福連携を実現。

⑪ 社会医療法人 みどり会 さんさんグリーン
（大阪府枚方市）

荒廃農地を活用し、京野菜や宇治抹茶の生産・加工・コミュニティカフェ運営を展開。ろう者を中心とした利用者の高工賃を実現するとともに、地域活性化に貢献。

2025 ノウフクアワード

フレッシュ賞

⑫ 社会福祉法人 みんなの輪 あいあいファーム わ・は・わ田尻 ひなた農場
（宮城県大崎市）

事業所開所時に養豚場の一部業務を受託し、養豚業を開始。その後、廃業予定であった別の養豚業者から事業継承を受け、現在は母豚230頭、育成頭数2千200頭の一貫生産を実施し、地域の畜産業の維持に貢献。

⑬ 株式会社 みずほライス
（秋田県横手市）

施設外就労等で障害者を受け入れ、AIを活用しながら工賃の向上を実践。ICT業界と農業界を繋ぐ農工福連携の実現を目指し、取組を実施。

⑭ ＪＸ金属コーポレートサービス 株式会社 内原（うちはら）ファーム
（茨城県水戸市）

ＪＸ金属株式会社の特例子会社。多様な人々が生き生きと働ける社会の実現を目指し、自前型・援農型両方の農福連携を実施。

⑮ 特定非営利活動法人 笑福（ふく）
（三重県紀北町）

様々な関係者と連携して農林水産業の多様な仕事を農福連携等で請け負い、年間を通して作業を確保。生きづらさや働きづらさを抱えた障害者やひきこもり、生活困窮者等の地域における居場所作りに貢献。

⑯ 福岡正信（まさのぶ）自然農園
（愛媛県伊予市）

障害者や生きづらさを抱える者等に対し、滞在型の自然農法による農作業を提供。地域との交流を図りながら多様な人が働く環境を創出し、定住や新規就農へとつなげる取組を実施。

2025 ノウフクアワード

チャレンジ賞

⑰ 多機能型就労継続支援事業所 リベラ
（北海道札幌市）

自然栽培農法による果樹や伝統野菜等の生産・加工・販売までを一貫して行い、すべての事業で障害者等が活躍。レストランを併設したワイナリーを開設し、年間1万本のワイン・シードルを製造。

⑱ 株式会社 きりん きりんの里
（青森県平川市）

福祉と地域が連携し、希少な津軽漆の苗木生産から加工・販売まで一貫して行う取組により、障害者の就労、工賃向上、一般就労の機会創出とともに、持続可能な地域づくりと伝統文化の継承に寄与。

⑲ 株式会社 風鈴（ふうりん）
（秋田県東成瀬村）

高齢者施設において、機能訓練を兼ねた夏野菜栽培や天日干し米づくり、稲わら飾りの制作・販売を通じて、高齢者が最期まで生きがいを持って働ける場を実現。

⑳ 全国農業協同組合連合会 耕種資材部 施設園芸企画課・ゆめファーム全農こうち
（東京都千代田区・高知県安芸市）

大規模施設園芸における労働力確保のため、福祉事業所と連携。周年栽培と作業のマニュアル化により誰でも働ける環境を構築し、安定労働と就業機会を拡大。

㉑ 株式会社 マテリアル東海
（岐阜県下呂市）

施設外就労として、養蚕の全工程及びいちごハウス内業務を委託。有効資源の活用と伝統産業の復興による地域活性化を図るとともに、雇用の創出や給与・工賃の向上につなげる取組を実施。

2025 ノウフクアワード グランプリ

1

株式会社 ココトモファーム

（愛知県犬山市）

農福連携の取組により自社栽培したお米を活用し、バウムクーヘンなどの米粉スイーツを製造・販売。
地域外企業との連携や、障害者が活躍する店舗の設置など、
地域共生と多様性のある雇用創出を実現。

人を耕す

- 複数業務（農業・加工・販売）を用意することで福祉事業所への請負報酬増を実現。また、複数業務の中から自身の特性に合った仕事を見つけられるため、一般就労への移行も実現。施設外就労からの正規社員登用も実施。
- 手話接客を行う「サイニングストア」では、聴覚障害者が主体的に店舗運営を行い、責任者も輩出。

地域を耕す

- 農業・加工・販売の一貫体制により米の高付加価値化と安定収益を実現。
- 「れんげ農法」によって特別栽培米を生産。荒廃農地を活用し、稲作文化と地域景観を保全。
- カフェの経営、「農業祭」や「ココトモフェスティバル」などのイベント、見学会「ココトモファームツアー」や農業収穫体験の実施、JA、行政、大学（日本福祉大学）、地域の企業（中電ウイング株式会社や、名鉄グループなど）との異業種連携で地域交流を拡大。

未来を耕す

- 農業・福祉・商業・工業を融合した「農福商工連携」を展開。
- 中部電力の特例子会社・中電ウイングと協働し、同社のいちごを使った「贅沢バウム ウイングいちご」を開発。農福連携を軸とした企業間連携という新しいモデルを展開。
- 「サイニングストア」など、多様性を体感できる革新的な店舗運営を実現。

成果

- 福祉事業所への請負報酬の支払額は、235万円（R5）から782万円（R6）へ増加。
- 農作業に携わる障害者等の数は、4名（R2）から89名（R6）へ増加。
- 売上高は、3,280万円（R2）から56,106万円（R6）へ増加。
- 農地面積は、8.2ha（R2）から11.8ha（R6）へ増加。
- 米粉スイーツや地域コラボ商品の開発により、農産物のブランド価値と市場競争力を強化。
- 行政、大学、企業と連携し、多分野での協働を拡大。農業だけでなく観光・教育・福祉を巻き込む「地域共生型の農福モデル」を形成。
- 「ココトモフェスティバル2025」では約3,000人を集客し、地域全体を巻き込むイベントを実現。障害者と地域住民が共に楽しみ、交流できる場を提供。

基本情報

- 設立／R元年
- 農福連携取組開始／R元年
- 取得認証等／認定農業者、GGAP、6次産業化認定事業者
- 主力商品／（農作物）米　（加工品）米粉バウムクーヘン
- 特徴的な取組／スマート農業、特別栽培、6次産業化

ホームページ▶

2025
ノウフク
アワード

グランプリ

株式会社 ココトモファーム

代表取締役　齋藤秀一

私たちは愛知県犬山市で、お米づくりを出発点に、米粉バウムクーヘンの製造・販売、そして障がい福祉施設などと連携した“農福商工”の取り組みを進めてまいりました。障がいのある仲間とともに、それぞれの場所で役割をつくり、働くよろこびと地域のつながりを育むことを大切にしています。

このたびノウフク・アワード2025でグランプリをいただけたことは、現場で汗をかいてくれている仲間、支えてくださる地域の皆さま、関係者の皆さまの力の賜物です。心より感謝申し上げます。

今後も「誰ひとり取り残さない居場所づくり」を軸に、農業を通じて多様な働き方と地域の未来を広げ、全国の皆さまと学び合いながら、ノウフクの輪をさらに大きくしていきたいと思います。

2025 ノウフクアワード
準グランプリ
人を耕す

社会福祉法人 新友会（しんゆうかい） ひまわり畑

（大分県大分市）

企業と連携して、高菜の栽培から一次加工、二次加工までを実施。
地域農家の農作業受託や農業生産法人への
一般就労などを通じて、地域農業に貢献。

人を耕す

- 一般就労した障害者に対しても、仕事が継続できるように必要な相談等の支援を行う「就労定着支援事業」を行うことで、ワンストップでステップアップを支援する体制を整備。
- 地域の基幹品種であるピーマン農家に実習生を派遣した後、採用され人手不足解消に貢献。
- 加工場で働く利用者らのために、ソックダクト（自然対流式の冷却装置）システムを採用。

地域を耕す

- 県中部振興局主導の下、産地パワーアップ事業を活用し、株式会社ふるさと館と株式会社東乃匠とともに高菜の栽培や加工を実施。
- 自社ほ場だけでなく、地域の農家から米やだいこん、梅などの栽培に係る農作業を受託。
- 様々な地域のイベントに出店するとともに、地域の公共施設や特別支援学校に喫茶店を開設。栽培した米や野菜、漬物等を使用した定食や弁当を提供し地域活性化に貢献。

未来を耕す

- 最新鋭の設備を完備したHACCP基準の加工場で、梅干し（小梅・南高梅）、高菜漬け20種類、浅漬け40種類などを製造。お中元、お歳暮のギフトとしても好評。
- 高崎山自然動物公園にエサとなるさつまいもを提供しているほか、清掃作業を受託。
- 特別支援学校の保護者会や、福祉事業所の職員、地域の議員など多くの視察を受入れ。

成果

- 平均工賃月額は、32,064円（R2）から38,313円（R6）へ増加。
- 農作業・加工に携わる障害者の数は、A型作業所に関わる人数が19名（R2～R6）で横ばい、B型作業所に関わる人数が18名（R2）から20名（R6）へ増加。
- 売上高は、9,713万円（R2）から12,175万円（R6）へ増加。
- 農地面積は、9ha（R2）から13ha（R6）へ増加。地域の農業生産法人への職場実習から就職につながった利用者がおり、地域の農業の担い手として活躍。その活躍を見て、地域の農業者の間で障害者への理解が促進。
- 大分県立さくらの杜高等支援学校の1階で喫茶店を開店。特別支援学校の生徒（R6年度：5名）の職場体験も受け入れ、卒業後の飲食店への就労にもつながっている。

基本情報

- 設立／H16年　●農福連携取組開始／H20年
- 主力商品／（農作物）高菜、米、唐辛子、かぼちゃ、じゃがいも　（加工品）漬物

ホームページ▶

2025 ノウフクアワード
準グランプリ
地域を耕す

佐賀県

（佐賀県佐賀市）

県のコーディネーターを中心とした農家と福祉事業所のマッチング支援により、
工賃向上や農地の維持、農業経営体の規模拡大に貢献。
中間支援者のためのマニュアル作成など、「佐賀モデル」が全国へ波及。

人を耕す

- 県農業経営課及び障害福祉課就労支援室に1名ずつコーディネーターを配置。
- 農福連携技術支援者であるコーディネーターが障害者に対して能力や適性に応じた農作業等の選定、可視化や治具の作成等の支援・助言を実施。
- マッチング後も農家と福祉事業所の声を拾い、サポートするとともに、双方の信頼関係が深まるように支援。

地域を耕す

- マッチング数の増加に伴い中間支援を行う人材が不足する中、R6年度から農福連携技術支援者育成研修を開催。また、農業振興センターやJA職員を対象とした中間支援の研修会を定期的に開催することで好循環のマッチングを実現。
- 農家と福祉事業所による体験イベントの開催支援や、地域の自立支援協議会就労支援部会での説明会、特別支援学校での説明会等により農福連携の認知拡大に貢献。

未来を耕す

- 「中間支援者のための農福連携マッチング推進マニュアル」を、県HPで公開。県外からも研修会の依頼があるなど、「佐賀モデル」として全国へ波及。
- 全国で初めてノウフクJAS製品である非常食「緊急救命72hおかゆ」を防災備蓄品として障害者優先調達推進法に基づいて購入し、就労支援B型事業所の工賃向上に寄与。

成果

- マッチング実績の合計額は、479万円（R3）から891万円（R6）へ増加。
- 中間支援を受ける福祉事業所は、13件（R3）から44件（R6）へ増加。
- 中間支援を受ける農家等は、14戸・団体（R3）から56戸・団体（R6）へ増加。
- マッチング件数は、25件（R3）から86件（R6）へ増加。
- マッチング支援により、農地の維持、規模拡大に貢献。例えば、ピーマンのヘタ切り・調製をJA選果場で複数の福祉事業所に依頼したことにより、農家は収穫作業に集中できるように。
- 福祉事業所に調製作業を依頼したことで、農家が栽培管理に手が行き届き、均質化を実現。福祉事業所も調整しやすい作業のため出来高UPの好循環が生まれたり、利用者が作業しやすい農産物を栽培するため「品質の良いものを作りたい」という農家の思いが品質の向上につながったりといった多数の好事例がある。
- 農家と福祉事業所が連携した体験農園の開催支援により、交流人口の増加に寄与。県内で3つの地域協議会が発足し、農福連携の推進に貢献。

基本情報

●農福連携取組開始／R3年　●特徴的な取組／中間支援　●主力商品／（農作物）きゅうり、たまねぎ、アスパラガス、ねぎ、ピーマン、ほうれんそう、こまつな、とまと、にら、バジル、スイートコーン、いちご、すもも、みかん、レモン、なし、畜産物

◀ホームページ

2025 ノウフクアワード 準グランプリ 未来を耕す

ぽかぽかワークス

（愛知県名古屋市）

障害者、生活困窮者、ひきこもり、刑務所出所者等の多様な者で、
農福連携×都市農業による米の付加価値向上を行う。
また、ユニバーサル農園の開設により、多様な人材が参加・交流できる場を創出。

人を耕す

- 障害者だけでなく、生活困窮者やひきこもり20名で取り組む。刑務所出所者も5名受け入れ。
- 農作業マニュアルや工賃規定等を整備することで作業効率を高め、工賃とモチベーションが向上する仕組みを構築。また、「スパイダーモア」や刈払い機などの作業を障害者が行える環境を整備し、作業効率をさらに向上させた。
- 農作業を通じて、地元の信頼を獲得。農業土木委員として農業用水を管理する者もいる。

地域を耕す

- 生産が減少している愛知県の伝統野菜「野崎白菜」の生産・販売を行い、普及に寄与。
- 認定農業者、JAの正組合員、地域計画の担い手として、荒廃農地約1.5haを開墾・再生し、農地面積を9haまで拡大。
- 地域のお祭りや防災訓練イベントへの参加、自然栽培の農業体験イベントの実施などを通じ、地域住民や学生ボランティア、行政、企業・団体など地域の交流・連携の場を創出。

未来を耕す

- 都市部での循環型農業の拡大を目指し、「アイガモロボ」を活用した米作りを実施。子どもがスマート農業技術に触れることで、農業の価値観の変革に取り組む。
- JAなごや、中川区社会福祉協議会、地元企業・飲食店等と連携し、稲作の農業体験「みんなで未来をつくろ米！プロジェクト」を実施し、都市農業の保全、地域活性化に寄与。

成果

- 平均工賃月額は、1万1,837円（R2）から2万1,367円（R6）へ増加。
- 交流人口は、165人（R3）から3,513人（R6）へ増加。
- 売上高は、190万円（R2）から1,625万円（R6）へ増加。
- 農地面積は、2ha（R2）から9ha（R6）へ増加。
- 1名が一般就労し、生活困窮者2名が事業所の職員として活躍。その姿を見て、他の障害者も一般就労を目指して訓練するなどの好循環を生む。
- ユニバーサル農園を開設し、従来の農業にとらわれず、間引き菜をその場で食べる、除草しながらおいしい雑草を探すなど自由で遊び心のある農体験を提供。多世代かつ障害者、ひきこもり状態にある者、生活困窮者など多様な人が参加し、交流できる場を創出。
- 農福連携×都市農業というブランディングで成功し、米の付加価値向上を果たす。現在は、結婚式の贈呈品（生まれた当時の体重と同じ重さのお米を両親に贈る「体重米」）としても全国で販売。

基本情報

●設立／H24年　●農福連携取組開始／H28年　●取得認証等／認定農業者　●主力商品／（農作物）米、はくさい、さつまいも　（加工品）一味唐辛子　●特徴的な取組／有機農業、特別栽培農産物の栽培、スマート農業、ユニバーサル農園

ホームページ▶

2025 ノウフクアワード 優秀賞

特定非営利活動法人 楽園プロジェクト

（北海道札幌市）

「戦力になる農福連携」をテーマに、24時間365日作業受託可能な体制で
農作業チームを結成し、平均工賃9.5万円以上を実現。
冬場には荒廃農地を利用して菌床しいたけ栽培を行い、年間を通じた作業を創出。

人を耕す

- 24時間365日作業可能な体制を構築し、年間約30戸の契約農家により安定した作業受託を実現。就労継続支援B型事業所の利用者と利用者からステップアップした職員で結成した「チームグリーン」は少数精鋭で運営され、月額平均工賃9.5万円以上を達成。
- 就労移行を積極的に推進し、他社移行や自社でのパート・正社員雇用を実現。

地域を耕す

- 町所有の空き家の交流センターを借用し、障害者福祉のインフラ強化のための相談窓口としてNPO法人いんくるらぼを設立。街全体で農福連携への理解を促進。
- 冬の仕事創出のため、荒廃農地を借用してR４年より菌床椎茸栽培を開始し、R5年にはノウフクJASを取得。冬季の受入れ先がない養護学校生徒の実習受入れに貢献。
- 農作業だけでなく、福祉除雪や住宅清掃などの地域の困りごとへも対応。

未来を耕す

- 農福連携技術支援者に資格手当を支給し、自社だけでなく農福連携全体が盛り上がるようコーディネーター育成に尽力。
- R3年より荒廃農地をユニバーサル農園として整備し、収穫体験や直売所、視察拠点として活用。社会福祉協議会や農家と連携し、高工賃の実現や若年農業者の育成などを推進。

成果

- 平均工賃月額は、5万円（R4）から10万円（R6）へ増加。
- 「チームグリーン」は、3名（R4）から8名（R6）へ増加。
- 菌床しいたけ出荷額は、100万円（R5）から200万円（R6）へ増加。
- R4年にゼロだった農地面積は、2a（R6）へ増加。
- 全国的にも珍しい完全民間の有料中間支援組織としての経験をもとに、農福連携を活用した町おこしや高工賃を実現。
- ノウフクJAS取得などが注目され、NHKや北海道での暮らしや仕事をテーマとしたウェブサイト『くらしごと』などで紹介。
- 農家目線と福祉目線の両立を重視し、高工賃の実現やコーディネートを推進。将来的には若年農業者に畑の管理や生産・出荷までを任せる計画。
- 特別支援学校からの卒業生が多く在籍しておりR6年は5名、R7年は2名を新たに採用。移行実績やテレビ出演などから就労希望者が増加。

基本情報

- 設立／R3年
- 農福連携取組開始／H31年
- 取得認証等／ノウフクJAS
- 主力商品／（農作物）菌床しいたけ
- 特徴的な取組／林福連携、ユニバーサル農園、中間支援

◀ホームページ

2025 ノウフクアワード 優秀賞

6

株式会社 エール 多機能型事業所 にじのいろ

（青森県板柳町）

耕作放棄地を活用し、AIによる自動かん水・施肥システムで作業の効率化を図りながら、高品質な果物や野菜を生産。施設外就労による複数の地域農家との農福連携やノウフクJASの活用を通じて、高賃金を実現。

人を耕す

- 作業の細分化やスタッフの農作業理解度の向上により、作業環境を改善し、障害者に体力と自信がついてきた。複数農家との連携が実現し、平均賃金の向上と利用者の技術習得につなげる。
- 施設外就労先の農家に些細なことでも褒めるようお願いし、利用者の自信向上と農家との信頼関係構築を実現。

地域を耕す

- JAから営農組合のにんにくの芽出し作業を依頼され、高評価を獲得。新たにりんご栽培の作業依頼につなげる。弘前市からも農家を紹介され、契約を結ぶなど地域との連携の場を拡大。
- 青果市場と連携し、耕作放棄地を活用したさといもの実証栽培に挑戦。
- 地域のノウフクマルシェに参加し、ノウフクJAS認証のピーマンやシャインマスカットを販売。地域との交流を深めた。

未来を耕す

- 耕作放棄地を活用し、全自動かん水・施肥システム「ゼロアグリ」を導入したシャインマスカット、メロン栽培を開始。作業の効率化と品質向上による収益増を実現。また、AI管理によりメロンの網目模様が均一に仕上がるとの評価を得て、県内農家や大手企業からも注目を集める。
- ノウフクJAS認証の青森県産ピーマンとして秋田県のスーパーに出荷。信頼性と話題性で売上も好調で、単価UPにより収益向上が実現。

成果

- 平均賃金月額は、6万7,000円（R2）から8万5,000円（R6）へ増加。
- 農作業に携わる障害者は、2名（R2）から9名（R6）へ増加。
- 売上高は、90万円（R2）から980万円（R6）へ増加。
- 農地面積は、0.3a（R2）から2.8a（R6）へ増加。
- スタッフが農家で実習し、障害特性に応じたワーキングメモリーを意識しながら、作業の細分化とシミュレーションを実施。利用者の自信につながり、農家が納得できる作業提供を実現。
- 作業を細分化し、できることから着実に取り組むことで、障害者は自信がつき、障害者の受入れに抵抗のあった農家や地域の理解も進んだ。
- 特別支援学校の生徒の見学体験会を実施し、ピーマンの収穫や出荷調製などを通して交流。利用者にとっても、教えるという新たな経験を積んだことで、成長の機会となった。

基本情報

- 設立／H27年
- 農福連携取組開始／H29年
- 取得認証等／認定農業者、ノウフクJAS
- 主力商品／（農作物）ピーマン、シャインマスカット、メロン
- 特徴的な取組／スマート農業

ホームページ▶

2025 ノウフク アワード 優秀賞

埼玉県立川越総合高等学校

（埼玉県川越市）

特別支援学校と連携して狭山茶の栽培管理等や、
地鶏の飼育から商品開発・販売までの6次産業化に取り組むことで
双方の生徒の進路選択の幅を広げ、将来のキャリアを考えるきっかけ作りに貢献。

人を耕す

- 様々な作業工程の中で、双方の生徒の特性や得意分野などを知ることができた。
- 特別支援学校の生徒が描いた絵をパッケージデザインに使用することで、特別支援学校の生徒の活躍の機会となり、喜びと自信につながった。
- 双方の生徒が自ら育てた農畜産物が商品化され、農業に対する意欲向上に貢献。

地域を耕す

- 地域特産の茶を鶏の飼料に加えることで、鶏肉の風味や品質が向上したほか、紅茶の茶殻や廃棄予定の茶葉を再利用することで、食品ロス削減にもつながり、SDGsの達成に貢献。
- 高校、特別支援学校の生徒、茶農家が連携し、合同での茶摘み体験や地域イベントでの生産物の販売により、地域のつながりが生まれ、障害者への理解が促進。
- 入間わかくさ高等特別支援学校が運営するカフェで連携商品「タマシャモカレー」を提供。

未来を耕す

- 異校種交流やイベント参加を通し多様な人と関わることで、双方の生徒の進路選択に幅が広がり、将来のキャリアを考えるきっかけとなっている。
- 学校による農福連携の促進を目指し、特別支援学校との連携事例を外部に紹介。
- 狭山茶の栽培管理等を通して、特別支援学校・農業高校・工業高校・商業高校が連携している取組は珍しく、新聞やテレビなどの報道でも取り上げられている。

成果

- 農産物販売上高は、44.9万円（R5）から87.8万円（R6）へ増加。
- 取組に興味を示す生徒が増えたことで、交流人数は、10人（R5）から30人（R6）へ増加。
- 農業を通した交流の中で、生徒の障害者に対する理解が深まり、お互い得意分野を活かし、協力し合う環境ができた。
- 同校生徒にも人間関係の構築が苦手な者も多く、はじめは戸惑っていたが、農業を通した交流の中で、障害を持つ生徒と積極的に交流していく姿勢がみられた。
- パッケージの個包装作業を特別支援学校の生徒に担ってもらうことで、完成品の安定供給が可能となり、販売数が増えた。

基本情報

- 設立／T9年
- 農福連携取組開始／R5年
- 特徴的な取組／6次産業化
- 主力商品／（農作物）地鶏（タマシャモ）、米、にんじん　（加工品）タマシャモカレー

◀ホームページ

2025 ノウフクアワード 優秀賞

8

株式会社 ピーカブー

（神奈川県三浦市）

特例子会社に農作業を委託し、作業の細分化やスマート農業の導入により収益性と生産性が向上。
より多様な人材が活躍できる環境が整備され、
現在は外国人労働者と共に障害者が農作業で活躍。

人を耕す

- 作業工程を巧緻性と最多注意配分数を両輪とした難易度評価により階層的に分け、現在の工程ができるようになったら次の難易度の工程にステップアップするルールを採用。
- 出荷調製所をユニバーサルデザインに改修し、合理的に配慮された休憩所やトイレも増築。交代制で休憩がとれるルールを徹底。

地域を耕す

- 特例子会社の障害者社員の成長とともに事業も拡大し、収益性・生産性が向上。
- 地域の農業技術を継承し、農福連携で「三浦かぶ」をはじめとした「三浦野菜」を栽培することにより地域農林水産業の維持・発展に貢献。
- 若手地域農家の経営相談に乗り、農福連携に取り組む各援農先のサステナビリティ経営に貢献。

未来を耕す

- 出荷調製所に数量カウントセンサーやオートメーションシステム等のスマート農業を導入。
- 出荷調整で毎日出る大量のかぶの残さを活かした循環農法を企業と共同研究・開発。
- かぶの選別作業にAI 搭載のプロジェクトマッピングを導入し、作業難易度の低減に成功。
- 休憩室に必要な農具を備えておくことで、特例子会社の社員がほ場に直行・直帰できる体制を整備し、障害者の自立を支援。

成果

- 作業請負年間支払額は、320万円（R2）から650万円（R6）へ増加。
- 受け入れる障害者数は、9名（R2）から17名（R6）へ増加。
- 農業売上高は、5,700万円（R2）から7,300万円（R6）へ増加。
- 農地面積は、1.8ha（R2）から4.0ha（R6）へ増加。
- 特例子会社の障害者社員は、3年かけて下葉の処理方法を習得。6年目の現在は農家と変わらぬ精度と効率で作業ができるようになった。
- 特例子会社の障害者社員が母校で講演を行い、特別支援学校の後輩に農業の魅力を広めている。
- 障害者も安全に安心して働ける環境が整い、より多様な人材が活躍できる場になったことで、障害者と外国人労働者が同じ現場で働くことができるようになった。

基本情報

- 設立／R2年
- 農福連携取組開始／H30年
- 取得認証等／認定農業者、みどり認定
- 主力商品／（農作物）三浦かぶ、すいか、かぼちゃ 等
- 特徴的な取組／スマート農業、ユニバーサル農園

ホームページ▶

2025 ノウフク アワード 優秀賞

特定非営利活動法人 にじのかけ橋

（静岡県三島市）

生産から販売まで障害者等が一貫して関わり、
作業工程の効率化や6次産業化により収益性を確保し、工賃向上を実現。
多様な人々が関わる仕組みづくりと地域内外の連携に取り組み、地域農業の維持・発展にも貢献。

人を耕す

- 作業工程の効率化や販売力の高い野菜などで収益性を確保し、平均工賃月額3万円を達成。
- スーパー等での対面販売など、利用者が生産から販売まで一貫して関わることで、責任感と意欲が向上。
- 利用者の能力に応じて役割を設定し、リーダーへのステップアップも推進。
- 言葉の壁や障害特性を乗り越えるため、視覚的な作業手順書を導入。

地域を耕す

- 荒廃農地を活用し、近隣農家からの協力も得ながら、季節野菜や地域の伝統野菜を栽培し、地域農業の維持・発展に貢献。
- JAや商工会、地域の企業や行政など異業種と連携し、地域全体での農福連携の推進体制を構築。
- 自社栽培の野菜などを使った「Nijikake Café(にじかけカフェ)」を運営し、利用者が接客や販売を行うことで地域との直接的な交流を図っている。

未来を耕す

- 「農福連携を地域と未来の希望につなげる」ことを掲げ、持続可能な取組を展開。
- 野菜を使用した無添加の加工品の開発や、直売所・イベントでの販売活動など、6次産業化も推進。
- 小中学校の児童・生徒を対象とした農業体験や職場見学の受入れなど、若い世代に福祉や多様性の理解拡大を促す活動をしており、未来の担い手づくりにも貢献。

成果

- 平均工賃月額は、22,350円（R2）から30,052円（R6）へ増加。
- 農作業に携わる障害者は、30名（R2）から75名（R6）へ増加。
- 農作物等の売上高は、310万円（R2）から404万円（R6）へ増加。
- 農地面積は、5.45a（R2）から7.45a（R6）へ増加。
- 障害者だけでなく、高齢者、外国人、ひきこもり経験のある若者、子育て中の主婦など多様な人々が関わり共に働く場を創出し、誰もが自分らしく働ける職場づくりを推進。
- 農作業で培った勤労習慣や体力、コミュニケーション能力が評価され、3名の利用者が食品加工会社やスーパーなどへ就労。

基本情報

- 設立／H23年
- 農福連携取組開始／H25年
- 特徴的な取組／6次産業化、林福連携、スマート農業
- 主力商品／（農作物）さつまいも、にんじん、しいたけ　（加工品）しいたけドレッシング、しいたけポタージュ

◀ホームページ

2025 ノウフクアワード 優秀賞

株式会社 農楽里（のらり）

（福井県あわら市）

AIやスマート農業を活用することで障害者の作業領域を大幅に拡大。
水稲栽培や観光いちご農園の運営などに取り組み、
楽しく多様な農福連携を実現。

人を耕す

- 農作物の播種・定植、除草、収穫、乾燥調製、出荷、加工の作業を分解することで、知的障害者、精神障害者の17名が自社事業及び施設外就労で、100haを超えるほ場の農作業に従事。
- 講習を修了した利用者がロボット田植機、「アシスト付PFコンバイン」のオペレーターとして活躍。
- 一人ひとりの特性、経験、技術、相性等を考慮し、作業内容、チーム編成を検討することで、利用者間の信頼関係を構築。

地域を耕す

- 農山漁村振興交付金を活用し、小口精米ユニットを導入。利用者が精米作業に従事し、首都圏、関西圏の福祉事業所、外食事業者へ精米を販売。
- 県内外からの視察や田植・稲刈り体験、いちご狩り体験の提供などで交流人口が増加。
- 獣害対策等として、ほ場周辺の除草作業を年4回実施し、中山間地の集落維持に貢献。

未来を耕す

- ドローン、ロボット田植機、「アシスト付PFコンバイン」、トラクターを導入し、米乾燥施設の温度管理にスマート農業を活用。
- 特別栽培農産物(米・メロン)の栽培、観光いちご園の暖房燃料は間伐材でのペレット材を使用し、環境にやさしい農業に取り組み、GH農場評価で900点以上と高い評価。

成果

- 平均賃金月額は、7万1,306円(R2)から8万7,038円(R6)へ増加。
- 売上高は、641万7,000円(R2)から2,145万4,000円(R6)へ増加。
- 交流人口は、1,409人(R2)から1万2人(R6)へ増加。
- 農地面積は、74ha(R2)から105ha(R6)へ増加。
- AIやスマート農業による農福連携で、安全性が高く、操作が簡便で、精度の高い農作業が可能となり、農作物の生産性や品質の向上、収益UPに寄与。
- 完全週休二日制、夏季休暇、年末年始休暇制度等で勤務条件を改善。
- 県平均を大きく上回る12万円以上の月額賃金を実現した者も増加。
- 利用者は、チーム長、リーダー、一般就労へとステップアップし、5名が一般就労。
- あわら市ふるさと納税返礼品に農福連携商品として登録。利用者がデザインした段ボール箱で返礼品を送付するなど、農福連携の普及啓発に尽力。

基本情報

- 設立／H25年
- 農福連携取組開始／H25年
- 特徴的な取組／スマート農業、環境保全型農業、特別栽培
- 主力商品／(農作物)米、大豆、さつまいも、かき　(加工品)いちごジャム、かきもち

ホームページ▶

2025 ノウフクアワード 優秀賞

社会医療法人 みどり会 さんさんグリーン

（大阪府枚方市）

荒廃農地を活用し、京野菜や宇治抹茶の生産・加工・コミュニティカフェ運営を展開。
ろう者を中心とした利用者の高工賃を実現するとともに、
地域活性化に貢献。

人を耕す

- 平均工賃は全国平均の約2倍。
- 盲ろう者など重複障害者なども在籍。高齢者には座ってできる作業、半身まひの者には片手でできる作業など、個々の特性に合わせた作業分担と支援を行い、全員が主体的に活躍できる環境を整備。
- ろう者のほか精神、知的、重複障害、認知症の高齢者など様々な人が助け合う風土を形成。

地域を耕す

- 山城北農業改良普及センターやJA京都やましろと連携し、京都えびいも、京都田辺茄子、花菜などの「京の伝統野菜・京のブランド産品」を生産。京都えびいもの苗を生産し、JAを通して、新規就農者などの手に渡り、地域農家を支えている。
- 手摘み茶農家が減少する中で、毎年手摘み収穫を行い、宇治茶文化を維持・継承。地域の茶農家への農業支援も実施。

未来を耕す

- スパイスメーカーと連携した「全国鷹の爪軸取り選手権大会」を開催したり、市の自立支援協議会就労部会への参加などで、農福連携の情報を発信したりしている。
- 利用者である日本で唯一の盲ろうトライアスリート中田鈴子選手を支援し、国内外でスポーツを通じた農福連携の啓発活動を展開。

成果

- 平均工賃月額は4.6万円（R6）、利用者は21名（R6）。
- 農地面積は、1.3ha（R6）で、すべて荒廃農地を活用。売上高は936万円（R6）。
- 市外の手話通訳者研修会などで講演し、農福連携とは無縁の福祉関係者への啓蒙活動に取り組むことで、農福連携の認知拡大に寄与。
- 併設カフェで毎日ワンコインランチを提供し、地域の高齢者などの居場所を作る。5月の茶摘み体験をはじめ、えびいもやなすの収穫体験、土曜市、呈茶など、通年で市民との交流イベントを実施。
- 低農薬・ノンワックスのレモンや無農薬のゆずを栽培し、ノウフクJAS認証を取得。皮まで安心して食べられる果実を使って大学やレストランと連携。レモネードの販売や柚子のホットソースの商品化など話題性のある取組を展開。
- 地域の特別支援学校や大学など、教育機関とも連携。

基本情報

- 設立／R6年　●農福連携取組開始／H23年　●特徴的な取組／環境保全型農業、ユニバーサル農園
- 主力商品／（農作物）宇治抹茶、京都えびいも、万願寺とうがらし、京都田辺茄子、米、京都レモン、ゆず

◀ホームページ

2025 ノウフクアワード フレッシュ賞

12

社会福祉法人 みんなの輪 あいあいファームわ・は・わ田尻 ひなた農場

（宮城県大崎市）

事業所開所時に養豚場の一部業務を受託し、養豚業を開始。
その後、廃業予定であった別の養豚業者から事業継承を受け、
現在は母豚230頭、育成頭数２千200頭の一貫生産を実施し、地域の畜産業の維持に貢献

人を耕す

- 利用者だけで作業に取り組むことも出来てきており、作業スピードも向上。
- 一つ一つの作業の工程を細分化し、障害特性に合わせた作業内容を提供。

地域を耕す

- R4年に廃業予定であった養豚事業者から養豚業を引き継いだことで、地域の畜産業の維持に貢献。
- 取組を地域にも知ってもらうため、年１回、遠田地区の事業所が集まりお祭りを開催。
- 地域の農家や畜産業者と交流し、情報交換などを含めた連携を図り、地域活性化にも寄与。

未来を耕す

- アニマルウェルフェアに配慮した飼養管理を開始。
- 同法人内や食品会社、学校給食から廃棄で出た食パン、地域の農業者からの飼料米などを活用し、飼料を製造。R7年10月から地域の小学校への豚肉の供給スタート。

成果

- 平均工賃月額は、3万5,000円（R5）から3万7,313円（R6）へ増加。
- 養豚に携わる障害者数は、４名（R5）から５名（R6）へ増加。
- 売上高は、２億2,016万円（R5）から２億5,734万円（R6）へ増加。
- 月6万円の工賃を達成した利用者もいる。
- 利用者が豚の体調やケガなどいち早く気づき指摘するまでに成長。
- 利用者が農機具まで扱えるようになり作業の幅も拡大。

基本情報

- 設立／H14年　●農福連携取組開始／H26年　※ひなた農場での農福連携開始はR4年
- 主力商品／（農作物）豚肉

ホームページ▶

2025 ノウフク アワード フレッシュ賞

株式会社 みずほライス

（秋田県横手市）

施設外就労等で障害者を受け入れ、
AIを活用しながら工賃の向上を実践。
ICT業界と農業界を繋ぐ農工福連携の実現を目指し、取組を実施。

人を耕す

- 施設外就労の障害者に指示を行うリーダー職として、障害者正社員を採用。
- 誰でも同じ成果を上げられる装置や仕組みを導入することを考え、AIを活用したしいたけの選別機、菌床の乾燥度を顔文字で表示する機械の共同開発や、白米の自動計量パック機械等を導入。
- 人が集まる農福連携マルシェ用のログハウスなど、心地よい距離感で会社内外ともに交流できる職場環境を整備。

地域を耕す

- 農福連携により小規模のほ場で多品目の野菜を栽培。荒廃農地を活用し、いぶりがっこ用だいこん、「雪ノ下にんじん」、空心菜など特色ある農産物を栽培。
- 横手北小学校や養護施設の子どもたちに毎年、田植え体験、稲刈り体験を提供。地域の子どもや高齢農家との交流を促進する。

未来を耕す

- AIやセンサーを活用したスマート農業を実践し、収益性の向上を図る。
- 障害者に合わせた仕事ができるシステムを構築。工賃向上を目指し、福祉事業所と連携して加工センターを運営。
- R7年「産地立地型加工プロジェクト推進事業」を活用し、しいたけの規格外品を使った6次産業化の取組を実施。

成果

- 平均工賃月額は、1万3,000円（R4）から1万5,000円（R6）へ増加。
- 受け入れる障害者数は、10名（R4）から15名（R6）へ増加。
- 売上高は、1億200万円（R4）から1億6,300万円（R6）へ増加。
- 農地面積は、60ha（R4）から75ha（R6）へ増加。
- 毎日、朝礼を実施。生きづらさを抱えた方々を支えるという会社理念を伝え、障害者に寄り添い思いやる心を育成。
- 農福連携の取組に共感した首都圏の5つ星ホテルから米の購入の申し出があり、販路が拡大。
- R7年に就労継続支援B型事業所で一律時給1,000円制を開始
- 農作業体験の受入れを経て、就労継続支援A型事業所の利用者を正社員として雇用。
- R5年度特用林産振興支援事業を活用し「AIしいたけ選別機」を開発。これにより障害者も訓練不要で選別ができるように。

基本情報

- 設立／R23年
- 農福連携取組開始／R4年
- 主力商品／（農作物）米、菌床しいたけ、えだまめ、たまねぎ
- 特徴的な取組／スマート農業、輸出、6次産業化、ユニバーサル農業

◀ホームページ

2025 ノウフクアワード フレッシュ賞

JX金属コーポレートサービス 株式会社

14

内原（うちはら）ファーム

（茨城県水戸市）

JX金属株式会社の特例子会社。
多様な人々が生き生きと働ける社会の実現を目指し、
自前型・援農型両方の農福連携を実施。

人を耕す

- 人事制度では、能力・成果を昇給や賞与に反映する仕組みを構築。やりがい作りのため、全員リーダー制や日々の作業に希望制を導入。
- 雇用する障害者のうち1名は、正社員にステップアップし、職場のリーダーとして活躍。
- 生産した農作物を、各地に工場を持つJX金属の従業員への販売や工場の食堂で活用するほか、農業体験・社員研修の場として活用し、グループ全体の障害者理解が促進。

地域を耕す

- JX金属、Jリーグクラブ「水戸ホーリーホック」、日本農業実践学園の3団体で連携し「農業×福祉×スポーツ」の地域活性化に向けた農福連携＋αの仕組みを構築。
- 日本農業実践学園の指導を受け、伝統的な技術と有機農法を継承するほか、同学園及び水戸ホーリーホックの農業事業の繁忙期に援農を実施。
- 従業員の家族や地域の保育園を対象に農作業体験を提供し、食育などを実施。

未来を耕す

- 障害者サッカーチーム「水戸ホーリーホック クノスフェアビデ」のメンバーで就労希望があれば内原ファームで採用するといった相互の人材交流の仕組みを構築
- 内原ファームの障害者が販売会などに参加し、生産した農作物を自ら販売することで社会とのつながりを感じられるとともに、地域の障害者への理解が促進。

成果

- 平均賃金月額は、12万円（R5）から13.1万円（R6）へ増加（加えて年2回の賞与あり）。
- 雇用する障害者は、4名（R5）から8名（R6）へ増加。
- 売上高は、104万円（R5）から180万円（R6）へ増加。
- 農地面積は、70a（R5～R6）を維持。
- 農作業に関連する資格取得を希望する者を支援し、刈払機取扱作業従事者講習6名受講、大型特殊免許3名取得。
- 加工や農業以外の仕事を作ることで、多くのやりがい・モチベーションを創出。内原ファームの障害者が、仕事をする中で自信を取り戻し、障害者手帳を返納した者もいる。
- 障害のある家族をもつグループ従業員から就業希望の相談を受けるなど、従業員の家族からも頼られる事業へ発展。

基本情報

- 設立／R4年
- 農福連携取組開始／R5年
- 特徴的な取組／環境保全型農業
- 主力商品／（農作物）野菜

ホームページ▶

2025 ノウフクアワード フレッシュ賞

特定非営利活動法人 笑福（ふく）

（三重県紀北町）

様々な関係者と連携して農林水産業の多様な仕事を農福連携等で請け負い、年間を通して作業を確保。
生きづらさや働きづらさを抱えた障害者やひきこもり、生活困窮者等の
地域における居場所づくりに貢献。

人を耕す

- 地域の農業・林業・水産業の多様な仕事を請け負うことで、個人の特性に応じた仕事を年間通して振り分けることが可能。
- 個人の作業習熟度に合わせて、ハウス管理を一任したり、しめ縄づくりの担当させたり、新規入所者の指導を任せたりと、責任をもって仕事ができる環境を整備。

地域を耕す

- 日本農業遺産である「尾鷲ヒノキ林業」の維持のため、火をつけて香りを楽しむ「スマッジスティック」やヒノキオイル、ヒノキ石鹸の製造を通じて新たな需要の開拓に向けた取組を実施。
- 地域内外の関係者と連携して、県内のカキ養殖のロープ補修などに取組み、水産業の維持に貢献。
- 地域の小学校を対象に、田植えや収穫、カカシ作り体験を提供し、地域との関係性を構築。

未来を耕す

- 地域の農林水産業の維持を図るため、生活困窮者やひきこもりの状態にある者など多様な人が様々な作業に携わり、双方の課題の解決を図っている。
- ヒノキの葉を使った商品など、室内での作業が必須の障害者等にとっても取り組みやすい作業を確保。

成果

- 平均給与月額は、1万円（R2）から2万5,000円（R6）へ増加。
- 農林水産業に携わる障害者数は、3名（R2）から7名（R6）へ増加。
- 農地面積は、0.6ha（R2）から6.0ha（R6）へ増加。
- 同じ作業をみんなで行うため、自然と良好な関係性が構築され、相互理解が促されている。
- ひきこもりの状態にある者には、個人の特性に合わせて、しめ縄づくりやヒノキ加工等の内職に取り組んでもらうことにより、ひきこもりからの脱却につながっている。

基本情報

●設立／R2年　●農福連携取組開始／R2年　●取得認証／認定農業者　●特徴的な取組／林福連携、水福連携
●主力商品／（農作物）いちご、米　（加工品）スマッジスティック、ヒノキオイル、ヒノキ石鹸

◀ホームページ

2025 ノウフクアワード フレッシュ賞

福岡正信（まさのぶ）自然農園

（愛媛県伊予市）

障害者や生きづらさを抱える者等に対し、滞在型の自然農法による農作業を提供。
地域との交流を図りながら多様な人が働く環境を創出し、
定住や新規就農へとつなげる取組を実施。

人を耕す

- 就労継続支援B型事業所への委託は、取組当初から1名あたり時給500円に設定。
- 得意なことや個々の性格、やりたい仕事に応じて作業を細分化。
- 障害者や生きづらさを抱える者、また自然農法を学びたい者に対し、年間20名程度(半数が海外から)に住環境と食事を提供し、多様な人と農作業に携わり、自然への関わり方を覚える機会を提供。

地域を耕す

- 自然農法の根幹となる「粘土団子づくり」のワークショップを地域の小学校で毎年実施し、地域との交流を図っている。
- 山椒の植付けなど手間のかかる農作物の作付を拡大し、就労継続支援B型事業所に委託する作業を確保している。

未来を耕す

- 自然農法で障害者など多様な人が働く場所を創出し、定住や新規就農につなげるなど、地域農業の維持・発展に貢献。
- 規格外品や豊作年の余剰作物をマーマレードやジュース等に加工。マーマレードは世界最高峰のコンテストで金賞を受賞。

成果

- 受け入れる障害者数は、1名（R4）から7名（R7）へ増加。
- 農地面積は、10ha（R4）から10.4ha（R6）へ増加。
- 多様な人が自然の中でそれぞれ得意とする力を発揮し、互いの違いを認め合う地域コミュニティが育つ環境を創出。
- ニューヨークの雑誌『Atmos』でも農園が紹介されたほか、NHKのドキュメンタリー番組が2年半～3年にわたり密着取材し、BSで放送。
- 滞在型での農作業の機会を提供することで、5名程度が新規就農を実現。

基本情報

- 設立／S48年
- 農福連携取組開始／R4年
- 特徴的な取組／自然農法、農薬不使用
- 主力商品／（農作物）米、野菜、果樹（柑橘類）、ハーブ類　（加工品）マーマレード、ジュース

ホームページ▶

2025 ノウフクアワード チャレンジ賞

多機能型就労継続支援事業所 リベラ

（北海道札幌市）

自然栽培農法による果樹や伝統野菜等の生産・加工・販売までを一貫して行い、
すべての事業で障害者等が活躍。
レストランを併設したワイナリーを開設し、年間1万本のワイン・シードルを製造。

人を耕す

- 12.5haのほ場での多様な農業生産・加工・販売を通じて売上が向上。
- 果樹・伝統野菜・希少なイタリア野菜等の生産・加工・販売まで自社で行っており、すべての事業において障害者等が従事。
- 適切な作業選択や研修などを通じた技術向上と働きやすい環境づくりに努めており、障害者の意欲と技術の向上により3年間で2名が一般就労に移行。

地域を耕す

- 荒廃農地になりそうな畑や果樹園の作業を受託し、自然栽培農法による適切な管理を行うことで、生産性を改善させ、地域農業の維持に貢献。
- 「黒もちとうもろこし」の生産・販売を通じて、北海道で長年栽培されてきた長年栽培されてきた系統の維持に貢献。
- ワイナリーに併設したレストランで、自社の野菜を使用した料理やワインを提供し、6次産業化のモデルとして取組の普及と、交流人口の増加に寄与。

未来を耕す

- 無肥料・無農薬の自然栽培農法で野菜等を栽培。
- R6年に「LIBERA WINE TERACE」を開設し、ワインとシードルの醸造を開始。
- ワインの購入代金の50%を障害者の工賃と環境整備に使用することを明示することで、障害者雇用や自然環境の改善など、地域や社会に貢献する仕組みづくりへ消費者の行動変容を促進。社会課題を解決することで事業が拡大していく構造をつくり取り組む。

成果

- 障害者等の工賃向上に努め、北海道の平均工賃を大幅に上回る時給450円（R6）を実現。
- 農業に携わる障害者は、8名（R2）から21名（R6）へ増加。
- 売上高は、183万円（R2）から889万円（R6）へ増加。
- 農地面積は、12.5ha（R2～R6）を維持。
- 自然栽培農法を学ぶ参加者が仁木町やその隣の余市町などに宿泊・滞在することで、地域経済と都市農村交流、関係人口の増加に貢献。
- 利用者のうち、R6年の農業従事者数は15名となっており、R2年から年々増加。
- 農福連携を通じた生産性の向上により、R6年はワイン9,000本、シードル1,000本を生産。

基本情報

- 設立／R2年
- 農福連携取組開始／R2年
- 特徴的な取組／自然栽培、環境再生型農業、スマート農業、農学校運営
- 主力商品／（農作物）りんご、ハスカップ、黒もちとうもろこし、ハーブ　（加工品）ワイン、シードル

◀ホームページ

2025 ノウフクアワード チャレンジ賞

株式会社 きりん きりんの里

（青森県平川市）

福祉と地域が連携し、希少な津軽漆の苗木生産から加工・販売まで一貫して行う取組により、
障害者の就労、工賃向上、一般就労の機会創出とともに、
持続可能な地域づくりと伝統文化の継承に寄与。

人を耕す

- 利用者別の評価シートを半年ごとに見直し、工賃向上につなげている。
- 苗育成、植林、営業、接客、ものづくり班、ワークショップ外部講師といった担当を設け、適性に応じた作業を選定。日替りリーダーに外部対応や指導を任せ、責任感と自信を育成。リーダーの働きは、工賃に還元。
- 講師を招いての作業マニュアルの作成、治具を用いた作業難易度の調整、通所困難な難病者にも在室で作業参加できる仕組みの構築など、安全で働きやすい職場環境を整備。

地域を耕す

- 年間1,000本の漆苗を安定生産し、販路を確保。副産物を活かしたアップサイクル事業で高収益を実現し、津軽塗産業との協働で観光客や漆文化の関心のある層に訴求。
- 荒廃農地や伐採後の山林を林業会社や学生とともに整備し、漆林へと再生。短期間で収益化が可能な漆を用いた山づくりを提案し、農林資源の活用と地域課題の解決に貢献。

未来を耕す

- 苗木生産から加工・販売までを一貫して行い、津軽塗とのコラボや外部講師の協力によって高付加価値の製品を創出。精神障害者にも良好な効果があり、定着率も向上。
- 取組内容はSNSやメディア、CMで積極的に発信し、全国から視察者を受入れ。作業マニュアルや治具などの工夫は他団体にも応用できる。

成果

- 平均工賃月額は、1万1,286円（R3）から2万825円（R6）へ増加。
- 作業に携わる障害者数は、3名（R3）から20名（R6）へ増加。
- R3年にゼロだった荒廃農林地の解消は、1.5ha（R6）へ拡大。
- 漆苗のポットレストレイでの栽培面積は、1㎡（R3）から10㎡（R6）へ増加。
- 植林作業での評価が自信につながり、就労移行支援や一般就労への移行を実現。ものづくりをきっかけにイラストレーターとして開業した者や、職業訓練校に進学した者も輩出。
- 「桜まつり」や「社協まつり」、「津軽塗フェア」などのイベントや展示会への出店や、講師活動などを通じて地域との交流を深め、コミュニティの維持・活性化に貢献。
- 企業、学校、行政へと連携を広げ、多世代・多分野での協働を推進。漆を通じた出会いから市民団体の設立に至るなど、地域活性化の新しいモデルを構築。

基本情報

- 設立／H25年　●農福連携取組開始／R3年
- 主力商品／（農産物）漆苗　（加工品）漆茶　●特徴的な取組／林業、ユニバーサル農園

ホームページ▶

2025 ノウフクアワード チャレンジ賞

株式会社 風鈴（ふうりん）

（秋田県東成瀬村）

高齢者施設において、機能訓練を兼ねた夏野菜栽培や
天日干し米づくり、稲わら飾りの制作・販売を通じて、
高齢者が最期まで生きがいを持って働ける場を実現。

人を耕す

- それぞれの能力に応じて、無理なく作業できるように道具を工夫したり、高さを調整したり、職員がサポートしたりすることによって、利用者ができる作業を創出。
- ほ場に行く前に体温・血圧測定を徹底し、水分補給と作業時間の調整を行う安全管理体制を構築。
- 「同じ釜の飯を」を合い言葉に、農作業を通じて共に生きる喜びを実感できる場づくりを実施。

地域を耕す

- 荒廃農地30aを再生し、雑草に覆われていた棚田を維持管理。
- 地域農家のとまとやリンドウ栽培に参加することで、農家の労力が軽減するとともに、高齢者の役割を創出。
- 大潟村の農家との連携で稲わら飾り(リース)を製造。天日干し米「冥土の土産」はふるさと納税返礼品に登録。

未来を耕す

- R6年から隣接する美郷町の高齢者施設でも米づくりなどの取組を導入。
- 自然農法・天日干しの希少性を活かし、付加価値が向上。
- 手植え・手刈り・手干しといった昔ながらの技術の継承が進み、地域の伝統を継承する人材育成の場にもなっている。

成果

- 平均介護度（利用者のうち要介護認定者の介護度の平均値）は、2.1（R2）から2.0（R6）に改善。
- 夏野菜・山菜の販売額は、5万円（R2）から10万円（R6）へ増加。
- 米の販売額は、7万円（R6）、稲わら飾りの販売額は、9.6万円（R6）。
- 介護が必要になり、家にひきこもっていた80代女性が、当初は断固拒否していた「農を通したデイサービス」を受け入れ、1年後には「ここに来ることが唯一の楽しみだ」と発言。
- 介護職員と高齢者が目標を一つにすることで、他の施設ではあり得ないような会話が生まれていたり、施設内では一歩も歩かない高齢者が、農作業だと1人で歩こうとしたりなど、利用者の生きがいを創出。

基本情報

- 設立／H20年　●農福連携取組開始／H25年　●特徴的な取組／環境保全型農業、特別栽培
- 主力商品／（農作物）米、とまと、リンドウ、山菜、夏野菜　（工芸品）稲わら飾り（リース）

◀ホームページ

2025 ノウフクアワード チャレンジ賞

全国農業協同組合連合会 耕種資材部施設園芸企画課・ゆめファーム全農こうち

20

（東京都千代田区・高知県安芸市）

大規模施設園芸における労働力確保のため、福祉事業所と連携。
周年栽培と作業のマニュアル化で誰でも働ける環境を構築し、
安定労働と就業機会を拡大。

人を耕す

- 作業委託料（単価）は福祉事業所と協議し決定。作業技術の向上に伴い、作業委託料（1袋当たりで単価を設定）も上昇する仕組みを導入。
- 作業のマニュアル化（書類・映像）等により適性を勘案した委託や作業中の適切な管理が可能に。
- 単発の軽作業からほ場内作業や袋詰め、出荷と、ステップアップできる作業を設けることで、障害者の能力が向上。

地域を耕す

- 「ゆめファーム全農構想」を掲げ、雇用型農業とし、作業を分解・マニュアル化することで障害者に限らず多くの人が簡易に作業従事することが可能な大規模多収型施設園芸を推進。
- ゆめファーム全農こうちは全国的に視察を受け入れて、取組の紹介を行うことで、農福連携への理解を醸成。

未来を耕す

- 簡便な作業で樹勢を維持しながら効率的かつ安定的な収穫が可能となる「ナスのつるおろし栽培法」を確立（特許第7623709号）したことで福祉事業所への作業委託でも好影響。
- 環境調和型農業に資する技術・資材を体系化した「グリーンメニュー」にも取り組み、ノウフクJASを取得した商品に限らず、環境等に配慮した商品を展開。

成果

- 福祉事業所への報酬支払額は、12万円（R3）から377万円（R6）へ増加。
- 農地面積は、1ha（R3～R6）を維持。
- 農業売上高は、5,100万円（R3）から6,500万円（R6）へ増加。
- 常時発生する集荷や袋詰め、JAへの出荷といった作業をすべて福祉事業所へ委託することで、ほ場運営も効率化し生産に注力できることから、収益性や生産性も向上。
- 各種センサーや環境制御機器を導入するスマート農業化を推進し、農福連携に限らず働きやすい環境を創出。

基本情報

- 設立／S47年
- 農福連携取組開始／R3年
- 取得認証等／ノウフクJAS
- 主力商品／（農作物）野菜
- 特徴的な取組／スマート農業、環境調和型農業

ホームページ▶

2025 ノウフクアワード チャレンジ賞

株式会社 マテリアル東海

（岐阜県下呂市）

施設外就労として、養蚕の全工程及びいちごハウス内業務を委託。
有効資源の活用と伝統産業の復興による地域活性化を図るとともに、
雇用の創出や給与・工賃の向上につなげる取組を実施。

人を耕す

- 蚕の飼育期間やいちごの栽培時期は決まっており、利用者は安定した収入を得ることが可能に。
- 数多くの生産工程があり障害の程度・就労能力によって作業を分担。
- 全工程に関わることで仕事の成果を可視化。強い達成感が得られる。
- 責任感をもって取り組めた実績が個人の自信につながり、作業にも好影響がある。

地域を耕す

- 荒廃農地を桑園に再生させることで、餌となる桑の葉の生産を内製化。農地面積を増加させるなど、農地と伝統産業の維持に貢献。
- 養蚕経験のある高齢者を雇用し、生きがいを創出。
- 市内唯一の観光いちご農園であり、地域の子ども会をいちご狩りに招待するなど、地域交流を促進。キッチンカーでは、いちごを使ったスムージーを販売。

未来を耕す

- 桑園では、利用者が選別した廃棄物を堆肥化し栽培に活用しており、資源のリサイクルを行いながら、伝統産業の復興に生かすとともに、雇用の創出を実現。
- 見学や体験を通じて、施設外就労先や雇用先の開拓に繋げ、利用者の将来への可能性拡大を図る。

成果

- 平均賃金月額は、12万2,000円（R2）から13万円（R6）へ増加(農業以外も含む)。
- 平均工賃月額は、6万円（R2）から6万2,000円（R6）へ増加(農業以外も含む)。
- 作業に携わる障害者は、15名（R2）から20名（R6）へ増加。
- 農地面積は、1.7ha（R2）から2.2ha（R6）へ増加。
- 養蚕の衰退に歯止めをかけるべく、R7年春には（R元年度当初の18倍である）約12万頭の蚕を飼育し、県内トップクラスの繭玉集荷量を達成。
- 作業中に利用者間で教え合い、助け合うといったコミュニケーション能力の向上が見られた。
- 利用者の働きぶりを評価した複数の企業から作業委託が増加。施設外就労先の新規開拓に貢献。

基本情報

- 設立／H7年
- 農福連携取組開始／R元年
- 特徴的な取組／養蚕業、環境保全型農業
- 主力商品／（農作物）いちご　（畜産物）繭玉

◀ホームページ

ノウフク・アワード　受賞一覧

ノウフク・アワード 2020

グランプリ
- 社会福祉法人 白鳩会 花の木農場（鹿児島県南大隅町）

審査員特別賞「人を耕す」
- 社会福祉法人 南高愛隣会（長崎県雲仙市）

審査員特別賞「地域を耕す」
- 社会福祉法人 青葉仁会　あおはにファーム（奈良県奈良市）

審査員特別賞「未来を耕す」
- 株式会社 ウィズファーム（長野県松川町）

審査員特別賞
- 松本ハイランド農業協同組合（長野県松本市）
- 特定非営利活動法人 HEROES（京都府京都市）
- 香川県社会就労センター協議会（香川県高松市）
- 全国農業協同組合連合会 大分県本部（大分県大分市）

優秀賞
- 一般社団法人 松島のかぜ（宮城県松島町）
- 社会福祉法人 こころん（福島県泉崎村）
- 埼玉福興株式会社（埼玉県熊谷市）
- 認定・特定非営利活動法人 UNE（新潟県長岡市）
- 特定非営利活動法人 ピアファーム（福井県あわら市）
- さんさん山城（京都府京田辺市）
- 株式会社 シルクファーム（鳥取県米子市）
- 社会福祉法人 喜和会 障害者支援施設太陽の里（島根県出雲市）

ノウフク・アワード 2021

グランプリ
- 京丸園株式会社（静岡県浜松市）
- さんさん山城（京都府京田辺市）

審査員特別賞「人を耕す」
- 社会福祉法人 ゆずりは会 菜の花（群馬県前橋市）

審査員特別賞「地域を耕す」
- 特定非営利活動法人 立野福祉会（新潟県佐渡市）

審査員特別賞「未来を耕す」
- 株式会社 菜々屋（徳島県徳島市）

審査員特別賞
- 安芸市農福連携研究会（高知県安芸市）

優秀賞
- 社会福祉法人 誠友会 工房あぐりの里（青森県おいらせ町）
- 特定非営利活動法人 一粒舎（千葉県木更津市）
- 株式会社イシイナーセリー（三重県鈴鹿市）
- 株式会社 いずみエコロジーファーム（大阪府和泉市）
- 社会福祉法人 一麦会 ソーシャルファームもぎたて（和歌山県紀の川市）
- 一般社団法人 STEP UP CoCoRo事業所（宮崎県宮崎市）
- 株式会社 リーフェッジ あまみん（鹿児島県龍郷町）

フレッシュ賞
- 新宿区 障害者福祉事業所等ネットワーク（東京都新宿区）
- 特定非営利活動法人 わっこ谷の山福農林舎（長野県筑北村）
- CuRA！（新潟県新潟市）
- 株式会社 JAぎふはっぴいまるけ（岐阜県岐阜市）
- 遊士屋 株式会社（三重県伊賀市）
- うりずんファーム ウィルチャーファーム（沖縄県沖縄市）

チャレンジ賞
- 社会福祉法人 青森県すこやか福祉事業団（青森県平内町）
- 福島県立大笹生支援学校（福島県福島市）
- 帝人ソレイユ 株式会社 我孫子農場 ポレポレファーム（千葉県我孫子市）
- 社会福祉法人 進和学園 しんわルネッサンス（神奈川県平塚市）
- 社会福祉法人 太陽福祉会 菜の花作業所（和歌山県御坊市）
- 社会医療法人 正光会 さんさん牧場（島根県益田市）

ノウフク・アワード 2022

グランプリ
- 農事組合法人 共働学舎 新得農場（北海道新得町）
- 社会福祉法人 ゆずりは会 菜の花（群馬県前橋市）

準グランプリ「人を耕す」
- 社会福祉法人 朋友 就労継続支援B型事業所 Cotti 菜（三重県鈴鹿市）

準グランプリ「地域を耕す」
- 社会福祉法人 パステル 多機能型事業所 CSWおとめ（栃木県小山市）

準グランプリ「未来を耕す」
- 社会福祉法人 月山福祉会（山形県鶴岡市）

優秀賞
- 株式会社 サンファーマーズ（静岡県静岡市）
- 株式会社 笠間農園（石川県内灘町）
- 株式会社 DAI 就労継続支援A・B型 それいゆ（岐阜県関市）
- 社会福祉法人 有田つくし福祉会 早月農園（和歌山県有田川町）
- 社会福祉法人 E.G.F のんきな農場阿武事業所（山口県阿武町）
- 社会福祉法人 出島福祉村（長崎県長崎市）

フレッシュ賞
- 有限会社 照沼農園（茨城県水戸市）
- 社会福祉法人 土穂会 障害福祉サービス事業所 ピア宮敷第1工房（千葉県いすみ市）
- 金沢市 農業協同組合（石川県金沢市）

●株式会社 ココトモファーム（愛知県犬山市）
●三休 ーSANKYUー（京都府京田辺市）
●株式会社 和光ワールド（愛媛県伊予市）

チャレンジ賞
●特定非営利活動法人 サトニクラス 就労継続支援A型サトニクラス酵房（北海道月形町）
●三陸ラボラトリ 株式会社（岩手県大船渡市）
●一般社団法人 イシノマキ・ファーム（宮城県石巻市）
●株式会社 八天堂ファーム（広島県三原市）
●大隅半島ノウフクコンソーシアム（鹿児島県大隅半島）
●社会福祉法人 みやこ福祉会（沖縄県宮古島市）

ノウフク・アワード 2023

グランプリ
●株式会社 ウィズファーム（長野県松川町）
●社会福祉法人 青葉仁会（奈良県奈良市）

準グランプリ「人を耕す」
●広島県立広島特別支援学校（広島県広島市）

準グランプリ「地域を耕す」
●一般社団法人 THE CHALLENGED（福岡県久留米市）

準グランプリ「未来を耕す」
●有限会社 あわら農楽ファーム（福井県あわら市）

優秀賞
●有限会社 F・F磯崎（宮城県松島町）
●NPO法人 ユアフィールドつくば（茨城県つくば市）
●株式会社 LSふぁーむ（岐阜県岐阜市）
●社会福祉法人 まつさか福祉会 多機能型事業所八重田ファーム（三重県松阪市）
●株式会社 しんやさい（京都府京都市）
●株式会社 おおもり農園（岡山県岡山市）
●社会福祉法人 博愛会（大分県竹田市）

フレッシュ賞
●株式会社 ファーストマインド 多機能型事業所ぴ～か～ぶ～WORKS（北海道札幌市）
●ひらまつファーム（静岡県浜松市）
●全国農業協同組合連合会 岐阜県本部（岐阜県岐阜市）
●一般社団法人 こうち絆ファーム（高知県安芸市）
●株式会社 杉本商店（宮崎県高千穂町）

チャレンジ賞
●社会福祉法人 ゆうゆう（北海道当別町）
●夢育て農園（東京都世田谷区）
●特定非営利活動法人 たかつき（大阪府高槻市）
●一般財団法人 かがやきホーム（奈良県橿原市）
●愛媛県立 伊予農業高等学校 生活科学科 食物班（愛媛県伊予市）
●一般社団法人 社会福祉支援協会（福岡県福岡市）
●合同会社 ソルファコミュニティ（沖縄県北中城村）

ノウフク・アワード2024

グランプリ
●株式会社 菜々屋（徳島県徳島市）
●一般社団法人 STEP UP（宮崎県宮崎市）

準グランプリ「人を耕す」
●NPO法人 熊本福祉会（熊本県熊本市）

準グランプリ「地域を耕す」
●株式会社 ココトモファーム（愛知県犬山市）

準グランプリ「未来を耕す」
●株式会社 八天堂ファーム（広島県三原市）

優秀賞
●青森県弘前市
●株式会社 バラの学校〈ナカイローズファーム〉（山形県村山市）
●埼玉県立特別支援学校羽生ふじ高等学園（埼玉県羽生市）
●社会福祉法人 ステップ・ワン（静岡県御殿場市）
●株式会社 JAぎふはっぴぃまるけ（岐阜県岐阜市）
●社会福祉法人 小国町社会福祉協議会（熊本県小国町）
●竹福商連携による竹の資源化モデルの構築と実践（鹿児島県大崎町）

フレッシュ賞
●ちば東葛農業協同組合（千葉県柏市）
●岐阜県立岐阜本巣特別支援学校（岐阜県岐阜市）
●佐賀県

チャレンジ賞
●社会福祉法人 めぶき会（栃木県小山市）
●社会福祉法人 フォーレスト八尾会 おわらの里（富山県富山市）
●株式会社 ケアプロフェッショナル（三重県伊勢市）
●社会福祉法人 上野丘さつき会（兵庫県神戸市）
●NPO法人 ライヴ（鳥取県米子市）
●社会福祉法人 ハイジ福祉会 フラワーパッケージセンター（福岡県八女市）
●株式会社 沖縄UKAMI養蚕（沖縄県今帰仁村）

2025 ノウフク アワード NOUFUKU AWARD 2025

2025
ノウフク
アワード
NOUFUKU AWARD
2025

お問い合わせ

農福連携等応援コンソーシアム事務局

■ 農林水産省 農村振興局 農村政策部 都市農村交流課 農福連携推進室
〒100-8950 東京都千代田区霞ヶ関1-2-1
電話 03-3502-8111（内線5448）　メール noufuku@maff.go.jp

■ 一般社団法人 日本基金
〒113-0034 東京都文京区湯島1-2-13 御茶ノ水明神ビル4階
電話 03-3518-5196　メール info@nipponkikin.org

※この冊子は農林水産省「農山漁村振興交付金」を活用して制作しています。